

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること



例えば、「地域の食文化と和食の調理」では・・・



教員が「見方・考え方」を意識しないと・・・

地域の食材を生かして和食の調理をしよう

調理実習ができるのかな？  
何を作ろうかな・・・



子供たちは、「調理をする」ということだけを考えていた。

子供が「見方・考え方」を働かせると・・・

地域の食材や食文化の特徴を踏まえ、  
和食作りを工夫しよう

地域の食材を生かすために、  
農家の方に話を聞いてみたいです。



子供たちは、食材を調理しておいしく食べるだけでなく、  
地域でとれた食材を利用することの意味を考えようとする。

## どのような生活の営みに係る見方・考え方をしているのか・・・

子供たちの問い：地域の食材を生かすとはどういうことだろう。

地域の食材は生産者と消費者の距離が近いから、より新鮮なものが食べられるし、生産過程も確かめられるね。環境への負荷も少ないね。地域の食材を買うことで、地域の生産者の方々に応援することになるんだ。

（「健康・快適・安全」、  
「持続可能な社会の構築」の視点）

家族や近所の高齢者の方に地域のおすすめの食材について聞いてみたよ。今度は郷土料理の作り方を教えてもらおう。

（「協力・協働」の視点）

自分の住んでいる地域や日本の各地でその地域の食文化があることがわかったよ。私たちの食生活に生かしていきたいね。

（「生活文化の継承・創造」の視点）



「和食の調理」（調理技術や栄養価）だけでなく、  
食事には文化を伝える役割があることを理解し、  
持続可能な食生活を目指して課題解決に向かう子供の学びの姿

例えば、「振り返り」の場面で、自分の考えを振り返ることで

地域で生産される食材には、私の知らないものもあったな。  
地域の方々の取組や私たちの工夫をいかして、地域の食文化を受け継いでいきたいな。

子供たちは、生活の営みに係る見方・考え方をより意識して働かせるようになる。